



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 232

2016/02/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

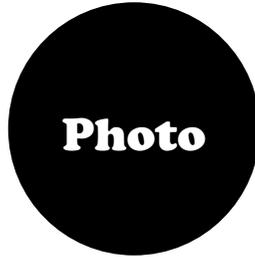
GREEN COLUMN

01. サケの赤ちゃん

02. 美幌にあったジャンプ台



今月の一枚



「フクロウ」

表紙写真・文／町田善康

年が明け、正月太りでなまった体を鍛え直すため、森の中を歩いていると、フクロウに出会いました。

フクロウは、その名前から「不苦労」に通じる縁起物とされることがあり、人気者の野鳥です。そんな縁起の良い野鳥に新年早々出会えるなんて、なんだか今年は良い年になりそうな予感がします。

この幸運をいつもグリーンレターを読んで下さる皆さんにも、お届けします。皆さんにとっても良い年になることを祈って。

Event. 今月のイベント

企画展「冬季作品展」 2月6日(土)～3月6日(日)

ロビー展「手作り魚道と動物たち」 ～2月21日(日)

博物館講座(芸術編)「ふるさとの作家たち」 2月6日(土)

プチ工房「羊毛のペーパーウェイト」 2月11日(木), 18日(木)

博物館講座(自然編)「アイヌ文化と自然」 2月20日(土)

モノ作り講座「和紙で作る折りびなかがり」 2月27日(土)

Information. 参加者募集

博物館講座(芸術編)「ふるさとの作家たち」

【講演会】●2/6(土) 10:00 - 12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●福田春美(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

プチ工房「羊毛のペーパーウェイト」

●2/11(木), 18(木) 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

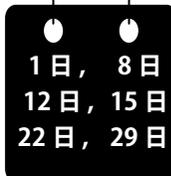
博物館講座(自然編)「アイヌ文化と自然」

【講演会】●2/20(土) 10:00 - 12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●内田祐一氏(文化庁) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座「和紙で作る折りびなかがり」

●2/27(土) 10:00 - 15:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(500円), 昼食, お手元が見えにくい方は眼鏡 ●八重柏誠(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(2/2 - 2/26)。対象は小学3年生から一般, 小学生は保護者の同伴が必要, 定員16名で締切。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム



サケの 赤ちゃん

写真・文／町田善康



例年、サケの観察会を実施していますが、今年は、美幌川はもちろん、支流の駒生川や魚無川など、どこへ行ってもその姿を見られたので、参加した皆さんには、大変楽しんでもらえました。まさに、サケの当たり年と言った感じでした。

そんなサケの観察会で登場するのが、産卵を終え、ほっちゃれになったオスとメスのサケです。今回は、このサケから卵と精子を取り出し、博物館で人工授精を試みました。10月10日に授精したところ、1カ月後には無事にふ化。そして、12月下旬になり泳ぎ出しました。今では、先に暮らすヒブナを隅へと追いやり、群れになって泳いでいます。

さて、そもそも、サケは淡水中で飼育し続けることができるのでしょうか。通常サケは、6月頃、海に下ります。その後、数年間は海で暮らし、産卵の

ため、ふるさとの川に帰ってきます。ですから、私も「サケは海に行くんだから、博物館では飼えない」と勝手にイメージしていました。

しかし、よく調べてみると飼育はできるようです。その上、生存率は、海水飼育した場合とそれほど変わらず、標津サーモンパークなどでは、淡水中で飼育したサケから卵を取ったことがあります。また、山形県の水産試験場では、淡水飼育したサケを特産品として売り出そうとしており、味はとても美味しく、刺身でも食べられるとのこと。出荷されるサケたちにつけられた名前もユニークで、高級魚で知られる鮭児(けいじ)をもじって鮭子(けいこ)と呼んでいます。

博物館にいるサケたちは、食べるわけではありませんが、このまま飼育を続けてみたいと思います。彼らの成長を一緒に見守って頂ければ幸いです。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

美幌にあった ジャンプ台

写真・文／八重柏誠



今冬の美幌は、例年通りの寒さのようですが、雪は少なく晴れの日が多いように感じます…というコラムを書いていると、冬將軍は黙っていないようで、締め切り間近に暴風雪に見舞われました。積雪量はきっちりと帳尻合わせをしてくるようですね。

ようやく冬本番を迎えた感のある美幌町ですが、寒い寒いと言って室内にこもってばかりもいられません。子どもたちは外に出て、ウィンタースポーツにいそしんでいます。美幌町では、スキーやスノーボード、クロスカン트리スキー、スピードスケートが一般的なところでしょうか。博物館の収蔵資料を見ていくと、木製のスキーや下駄スケートなどがあり、昔からウィンタースポーツが盛んだったことがうかがわれます。

また、収蔵写真を見ていくと、美幌町ではスキーに関連した資料が数多く

残されており、スキーが盛んだったことがわかりました。このような写真の中に一際、目をひくものがありました。昭和33年撮影の美英坂ジャンプ台です。町の歴史を紐解くと、このジャンプ台は美英の丘（旧美幌中学校周辺）にあったもので、昭和7年に設置されました。21.50mのバッケンレコードがジャンプ台の記録として残っています。ジャンプ台のあった当時は、冬になるとジャンプの他に、スキーの滑降やクロスカンントリーなどを楽しむために、多くの人が集まったそうです。

美幌町民に親しまれたジャンプ台は昭和40年に、新たに建設される中学校の敷地が手狭になってしまうとの理由から、残念ながら解体されました。現在、この周辺は閑静な住宅地となり、斜面には樹木が生い茂っています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



あけましておめでとうございます。みなさまは年末年始をどうお過ごしになったでしょうか。年末に娘が急性胃腸炎になり、妻と私も胃腸炎をもらって散々な年明けとなってしまいました。これも厄年のせいかもしれません。お祓いに行ってくださいと思います。(八重栢)